

2021/10/14

松江泰治 マキエタ CC

MATSUE TAIJI: makietaCC

2021年11月9日(火) - 2022年1月23日(日)



《TYO 90835》 2021年 発色現像方式印画 作家蔵 ©TAIJI MATSUE Courtesy of TARO NASU

松江泰治（1963年、東京都生まれ）は世界各地の地表を独自の視点で写してきました。作家が撮影時に設けた、画面に地平線や空を含めない、被写体に影が生じない順光で撮影するといったルールは、写真の本質を問い直すような平面性を生み出しています。本展では、作家がこれまでに制作してきた作品の中から、〈CC〉と〈makieta（マキエタ）〉という二つのシリーズを、初公開となる新作も交えて紹介します。

2001年から制作されている〈CC〉は、「シティー・コード」（City Code）を略したシリーズ名の通り、各作品のタイトルには撮影地の都市コードが付されています。ギリシャのアテネから撮影が始まったこのシリーズでは、作家が訪れた世界各地の都市の諸相が克明に写し出されています。画面全体にピントを合わせることで、奥行きが取り除かれ、画面上にあらゆるものが等しく存在しています。

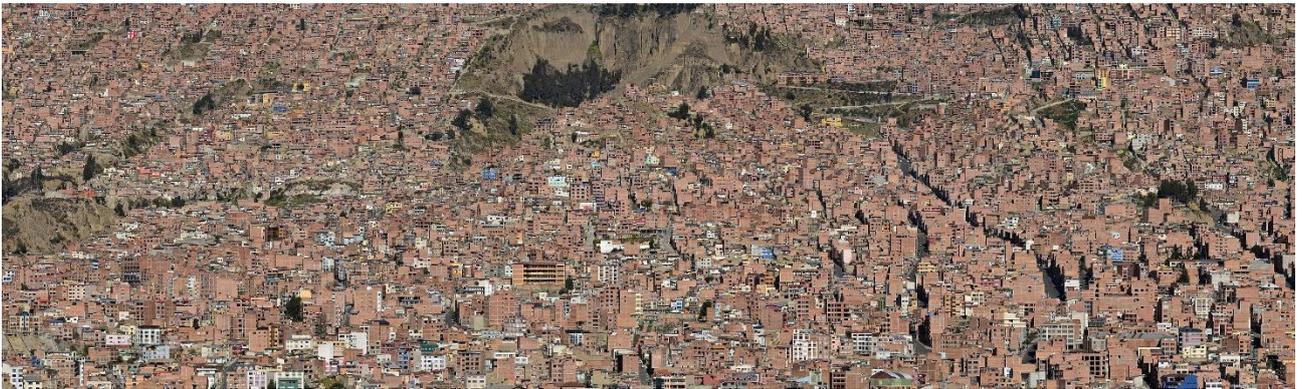
一方、2007年から制作されている〈makieta〉の作品にも、都市コードや地名が付されています。「makieta（マキエタ）」とはポーランド語で模型を意味し、実際の都市や自然を撮影した他の作品と同じルールで、世界各地の都市や地形の模型が写されています。エクアドル・キトの博物館に展示されていた模型を起点に、レンズを通して模型から立ち現れる風景には、現実と見紛うほどの精巧さがあり、その曖昧な境界は写真の本質を浮き彫りにします。

ミッドキャリアでの個展となる本展では、最新作を含む二つのシリーズを通して作家の現在地を示すとともに、その表現の可能性を探ります。

出品シリーズ

CC (2001-)

「CC」とは「シティ・コード (City Code)」の略で、各作品のタイトルに撮影地の都市コードが付されたシリーズ。1990年から世界各地の地表を集める〈gazetteer(ギャゼティア)〉(1990年-)を制作していた松江が、収集した地名に都市の地名が欠けていることに気づき、2001年にギリシャのアテネでの撮影から制作が始まった。〈gazetteer〉と同じく、被写体に影が生じない順光での撮影や、画面に地平線を含まない構図など、独自の厳密なルールに基づいて撮影することで、奥行きが意図的に排除され、細部まで克明に写し出される。一見すると空撮のように見える作品は地上から撮影されており、制作ルールに合う撮影場所が綿密なリサーチを重ねて選ばれている。〈gazetteer〉と共に作家を代表するシリーズ。



《LPB 1733》2021年 発色現像方式印画 作家蔵



《PAR 32319》2008年 発色現像方式印画
アマナコレクション



《SYD 20119》2012年 発色現像方式印画 東京都写真美術館蔵

makieta (2007-)

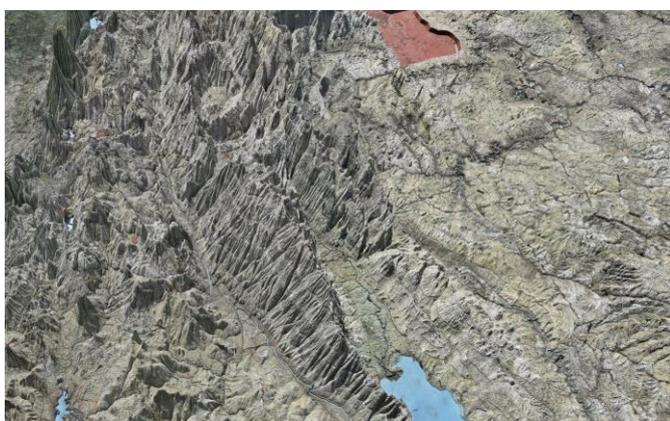
「makieta (マキエタ)」は、ポーランド語で「模型」を意味する。2007年に〈CC〉の撮影で訪れた南米エクアドルの博物館で、首都キトの都市模型に偶然出会ったことをきっかけとして制作が始まった。このシリーズでは〈gazetteer〉や〈CC〉と同じルールで世界各地の都市や地形の模型が撮影された。作品タイトルも、都市模型の作品には〈CC〉と同じく都市コードが、地形模型の作品には〈gazetteer〉と同様に地名が付されている。被写体となった模型は制作された年代、目的、使われている素材などが様々でバリエーションに富んでいる。



《DENMARK 17939》2012年 発色現像方式印画
東京都写真美術館蔵



《WAW 62222》2021年 発色現像方式印画 作家蔵



《Guatemala 1904》2021年 発色現像方式印画
作家蔵

出品点数（予定） 54点（写真：50点、映像4点）

見どころ

1 〈makieta〉と〈CC〉—写真の本質に迫る2つのシリーズ

東日本の公立美術館で初個展となる本展では、松江が近年意欲的に制作し、初公開作品を多く含む〈makieta〉と、代表作の〈CC〉という2つのシリーズを並べて展示することで、写真の本質に迫ります。松江の巧みな撮影技術と独自のルールにより、現実を写しながらも、人間の視覚とは異なる風景を作る〈CC〉と、現実と見紛うほどの精巧さを持ち、実際の都市のように見える〈makieta〉。展示室に並ぶ2つのシリーズは、現実と虚構の境界を攪乱し、写真とは何かを問い直します。

2 変わらないコンセプトと変化する表現

画面に空や地平線を含めない、被写体に影が生じない順光で撮影するというルールにもとづき、画面全体を均質かつ克明に写すというコンセプトは、初期作品〈TRANSIT〉（1984-1985年）で基本形が確立され、以降変わることがありません。一方で、モノクロからカラーフィルムへの移行、デジタル技術の革新による動画制作の開始、デジタル技術を駆使したパノラマ作品の制作など、新しい技術を取り入れ、その表現は変化してきました。54点のうち32点が新作の本展で、松江の最も新しい表現に注目ください。

3 新作映像作品の公開

2010年から制作を開始した映像作品は、写真作品と同じ松江独自のルールで撮影されています。一見したところ写真のように見えますが、よく見ると細部が少しずつ動いていることに気づかされます。本展では、色とりどりの野菜や果物が積み上げられたグアテマラの市場を映した作品など、写真作品ともリンクする4点の映像作品を展示。写真作品同様に、私たちに「見ることの楽しさ」を提示してくれます。

作家略歴

松江泰治 | Matsue Taiji

1963年、東京都生まれ。1987年、東京大学理学部地理学科卒業。2002年、第27回木村伊兵衛写真賞受賞。『gazetteer』（2005年）、『CC』（2005年）、『JP-22』（2006年）、『cell』（2008年）、『jp0205』（2013年）、『LIM』（2015年）、『Hashima』（2017年）など写真集多数。主な個展に「世界・表層・時間」IZU PHOTO MUSEUM（2012年）、「地名事典 | gazetteer」広島市現代美術館（2018年）など。

展覧会図録

「松江泰治 マキエタ CC」

A4変形／88頁／価格未定／東京都写真美術館発行

フランツ・プリチャード（プリンストン大学東アジア研究科講師）および伊藤貴弘（東京都写真美術館学芸員）によるテキストほか出品作品全図版を掲載。

開催概要

展覧会名[和] 松江泰治 マキエタ CC

展覧会名[英] MATSUE TAIJI: makietaCC

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

会期 2021年11月9日(火) - 2022年1月23日(日)

会場 東京都写真美術館 2階展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00（木・金は20:00まで）入館は閉館30分前まで

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合開館し、翌平日休館)、年末年始(12/28-1/4、ただし1/2、1/3は臨時開館)

観覧料 一般 700円／大学・専門学校生 560円／中高生・65歳以上 350円

※小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料。

※1月2日(日)、3日(月)は無料。開館記念日のため1月21日(金)は無料。

※本展はオンラインによる事前予約を推奨します。詳細はホームページをご参照ください。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

展覧会担当 伊藤 貴弘

広報担当 池田 良子 / 平澤 綾乃 / 鈴木 彩子 press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により内容を変更する場合があります。最新情報は当館ホームページをご確認ください。